

医療福祉活動演習

地域活動

《担当者名》講師 / 中山 章

【概要】

近年の薬剤師を取り巻く環境の変化は大きく、かかりつけ薬剤師制度など、薬剤師業務が対物中心業務から対人中心業務へと大きくシフトしている。かかりつけ薬剤師制度の中では、薬局での調剤業務の他に、医療にかかる地域活動への参画が求められており、薬剤師の地域医療へのさらなる貢献が期待されている。

本演習においては、薬剤師の地域社会における役割と現状について学ぶとともに、本学に設置されている薬剤師支援センターのセミナーや、種々団体の学術大会、お薬相談会、医薬品の適正使用に関する講演会・展示会、薬物乱用防止啓発活動、こども調剤体験コーナー、啓発資材の作成・配布、市民参加型シンポジウムなどに参加し、現場で活躍する薬剤師から、地域活動における薬剤師の役割の将来性について総合的に学ぶ。

【学修目標】

患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。

地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動について説明できる。

現場での体験学習を通じて医療人としての適切なコミュニケーション能力を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	体験学修に向けて具体的な内容を概説できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム B-3-1 地域の保健・医療 1)～5)	中山 章
2	事前学修	薬剤師の医療にかかる地域活動における役割と現状について概説できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム B-3-1 地域の保健・医療 1)～5)	中山 章
3) 13	体験学修	薬剤師の医療にかかる地域活動に参加する。 関連するモデル・コア・カリキュラム B-3-1 地域の保健・医療 1)～5)	中山 章
14) 15	報告発表会	体験学修した内容を、発表を通じて説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム B-3-1 地域の保健・医療 1)～5)	中山 章

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

体験学修への取り組み態度（50%）、発表内容（25%）、レポート（25%）

レポートは返却しないが、報告発表会の中で紹介を行う。

【教科書】

Classroomを通じて適宜資料配布

【学修の準備】

・事前学修では、薬剤師の医療にかかる地域活動について、インターネット等を使い、どのようなものがあるか調べて授業に臨むこと（80分）。

・体験学習参加前には、具体的な資料をclassroomを通じて配付するので十分に目を通し、関連する事項についても、個々に調べて体験学修に臨むこと（80分）。

・体験学習参加後には、体験した内容について振り返り、classroomを通じてレポートを作成すること（80分）。

(2026年度・薬学部)

【関連するモデル・コア・カリキュラム】

B-3-1 地域の保健・医療 1)~5)

【薬学部ディプロマ・ポリシーとの関連】

3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

中山 章 (薬剤師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での薬剤師としての実務経験を通じて得た知識・技能・態度等を活用し、実践的な教育を行う。